

鈴木隆史教授定年退職記念号によせて

経営学部長/経済・経営学会長 岸 川 典 昭

鈴木隆史教授は、2004年3月末日をもって経営学部（旧商学部）国際経営学科を定年退職されることになりました。ここに長年にわたる名城大学および経営学部（旧商学部）に対する先生の御貢献に感謝の意を表する次第です。

先生は1963年3月に名古屋大学大学院法学研究科博士課程を満期退学された後、同年4月に徳島大学学芸学部助手、1964年7月に同大学教養部講師（政治学担当）、1966年4月教養学部助教授、1972年4月教養学部教授に就任され、1990年4月千葉大学に移られ教養部教授、そして1994年4月名城大学商学部教授（歴史学担当）に着任されました。以来教育と研究に情熱を注がれ大学ならびに学部の発展に寄与されてきました。

研究面では、日露戦争期から満州国の終焉にいたるまでの日本と満州の歴史的関係を主に政治・外交史に重点を置かれて分析し、日本の満州支配の実態について深く研究されてきました。30歳代には、満州国の成立過程を明らかにし、その統治の特質について精力的に研究され、その成果を1972年の『日本と世界の歴史』第20・21巻等で発表されています。40歳代には、満州国協会の成立から解体にいたる歴史を分析し、同会が満州国の国民動員組織として果たした役割を究明され、また日中戦争から太平洋戦争の敗戦にいたる時期の満州・朝鮮・台湾における植民地支配の実態について分析し、その成果を『季刊・現代史』や岩波講座『日本歴史』第21巻等に発表されています。50歳代には、日中戦争がなぜ太平洋戦争にまで拡大されたかを、国際関係を含めて多角的に研究され、その成果を『15年戦争史(2)日中戦争』等に発表されています。これらの研究を集大成されたのが1992年に出版された『日本帝国主義と満州1900～1945』（上・下）です。この時期の日本の中国大陸ならびに太平洋周辺部における政治的・軍事的行動の解明は、単に歴史的問題であるのみならず、今日の歴史的状況と対比してみた場合極めて今日の課題を持っているのであり、先生のご研究は非常に重みのある価値ある研究であり、高く評価されるものであります。

教育面では、歴史学を担当され、歴史の重要性、民主主義の重要性を熱心に説かれるとともに、学生の教育に細心の注意を払いながら、学生の人格を尊重され、彼らの人間形成と知的素養の育成のために全力で取り組み、多くの優位な人材を育ててこられました。

行政面では、附属図書館運営委員、学芸員課程運営委員、商学部将来計画検討委員等を歴任され、1996年には資料室長、2001年には研究委員長、また1996年4月から2年間学科長（教養学科）の要職につかれるなど、名城大学のためにまた本学

部改組転換期の教育・研究体制の方向性を確立するために、大いに貢献されてきました。

その他、社会的・政治的問題に常に関心を持たれ、民主主義の重要性を説かれるとともに、研究・教育だけでなく学外でも積極的に行動され、社会に多大な貢献をされてきました。

ここに先生のご苦勞とご功績に心より感謝し、退職記念号を刊行し、先生にささげるものであります。研究・教育のみならず行動の面でも多大なご活躍をされた先生が本学ならびに経営学部に残した足跡は大きいものがあります。なにとぞご健康に留意されて今後とも私たちをご指導いただくよう心からお願い申し上げます。退職記念号によせる言葉といたします。